

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-12	高等学校	地理歴史科	日本史B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	日 B315	新日本史 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- (1)平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「日本史B」の目標、内容、内容の取り扱いの趣旨に従ったが、高等学校における日本史学習上の問題点や教育現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて作成した。
- (2)高等学校学習指導要領「日本史B」の内容である「原始・古代の日本と東アジア」「中世の日本と東アジア」「近世の日本と世界」「近代日本の形成と世界」「両世界大戦期の日本と世界」「現代の日本と世界」の趣旨に従って、部・章立てをおこなった。
- (3)日本の歴史の展開を諸資料に基づいて客観的に叙述した。地理的条件や世界の歴史とも関連付けて叙述するなど、総合的な考察を通じて歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。
- (4)標準単位数 4 単位で履修されることを前提として編修し、わかりやすい文章表現で、できる限り詳細に叙述した。政治・経済・社会・文化などの諸事象は、相互の関連を重視した叙述を心がけ、単なる事項の羅列にならないよう十分に注意した。
- (5)諸資料を多角的に検討・解釈し、その結果を自らの言葉で論述させることを意図して、「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」ではそれぞれ特定の主題を設定し、歴史考察の手段・方法を具体的な資料に基づきながら例示した。
- (6)高等学校における日本史教育の重要性を考慮し、特に公正な立場から正確に叙述するとともに、必要に応じて歴史学の新しい研究成果を織り込んで包括的に叙述した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
歴史と資料 正倉院と古代の歴史	*「歴史と資料」では、主体的な学習を促すため、歴史を考察するための具体的な資料を例示した(第 2 号)。	6~8ページ
第 1 部 原始・古代 1 章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の形成	*部の冒頭で、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し年表も掲載した(第 1 号)。	9ページ

<p>3 古墳とヤマト政権</p> <p>2章 古代国家の形成</p> <p>1 ヤマト政権の支配機構</p> <p>2 推古朝と飛鳥文化</p> <p>3 律令国家への道</p> <p>4 律令国家の構造</p> <p>3章 古代国家の展開</p> <p>1 天平時代</p> <p>2 天平文化</p> <p>3 律令国家の転換</p> <p>4章 宮廷貴族社会の成立</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国司の支配と社会の変化</p> <p>3 国風文化</p>	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p> <p>*アニミズムなど、人びとと自然との共生という観点に配慮して、叙述した(第4号)。</p>	<p>10～78ページ</p> <p>10～19, 22～28, 31～32, 35～37, 40～42, 54～58, 62～63, 73～78ページ</p> <p>15ページなど</p>
<p>第2部 中世</p> <p>5章 武家政権の成立</p> <p>1 院政の成立</p> <p>2 中世社会への胎動</p> <p>3 鎌倉幕府</p> <p>4 執権政治</p> <p>5 鎌倉時代の社会と文化</p> <p>6 蒙古襲来と幕府の衰退</p> <p>6章 中世社会の展開</p> <p>1 室町幕府の成立と南北朝の内乱</p> <p>2 室町幕府の支配と守護</p> <p>3 東アジア世界との交流</p> <p>4 民衆の台頭と室町時代の文化</p> <p>5 戦国動乱と諸地域</p>	<p>*部の冒頭で、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p> <p>*「災害と中世の人びと」のコラムなど、人びとと自然との共生という観点に配慮して、叙述した(第4号)。</p>	<p>79ページ</p> <p>80～144ページ</p> <p>104～106, 127～128, 132～136, 140～142ページ</p> <p>119ページ</p>
<p>歴史の解釈 絵画資料から考える</p>	<p>*「歴史の解釈」では、主体的な学習を促すため、歴史を考察するための資料の解釈について具体的に例示した(第2号)。</p>	<p>145～148ページ</p>
<p>第3部 近世</p> <p>7章 幕藩体制の確立</p> <p>1 織豊政権</p> <p>2 江戸時代の政治の仕組み</p> <p>3 江戸時代の社会の仕組み</p> <p>4 江戸時代初期の対外関係</p> <p>8章 幕藩体制の展開</p>	<p>*部の冒頭で、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観し年表も掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙</p>	<p>149ページ</p> <p>150～195ページ</p>

<p>1 幕政の安定 2 江戸時代の経済の仕組みと発展 3 元禄文化 4 幕政の展開</p>	<p>述した(第3号)。  *文化史は、時代背景や諸外国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>156～157, 163～165, 185～188, 192～195ページ</p>
<p>歴史の説明 田沼意次の歴史的な評価</p>	<p>*「歴史の説明」では、主体的な学習を促すため、歴史を説明するための多角的な考察について具体的に例示した(第2号)。</p>	<p>196～198ページ</p>
<p>9章 幕藩体制の動揺 1 社会変容と対外危機 2 化政文化 3 内憂外患と改革</p>	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。  *文化史は、時代背景や諸外国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。</p>	<p>199～218ページ  209～213ページ</p>
<p>第4部 近代・現代 10章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と文明開化 11章 立憲国家の成立と日清・日露戦争 1 自由民権運動と大日本帝国憲法 2 初期議会と条約改正 3 列強の中国分割の始まりと日露戦争 4 日露戦争後の政治と社会 5 近代産業の定着 6 近代文化 12章 大正デモクラシーと政党政治 1 第一次世界大戦と大陸進出 2 大正デモクラシーとワシントン体制 3 政党政治の展開 4 市民文化の時代 13章 第二次世界大戦と日本 1 中国問題と軍部の政治的台頭 2 日中全面戦争と第二次世界大戦 3 太平洋戦争 14章 占領と国際復帰</p>	<p>*部の冒頭で、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観し年表も掲載した(第1号)。  *全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。  *文化史は、時代背景や諸外国との交流とも関連付けて叙述し、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財などは積極的に図版として取り上げた(第5号)。  *足尾鉍毒事件や高度経済成長期の公害問題、地球規模の環境問題について触れるなど、生命の尊さや環境の保全の重要性にも配慮した記述を心がけた(第4号)。</p>	<p>219ページ  220～361ページ  236～239, 275～283, 305～308, 324～325, 338, 360ページ  274, 346～347, 360ページ</p>

1 戦後改革 2 冷戦とサンフランシスコ講和会議 15章 55年体制と高度経済成長 1 55年体制の成立 2 高度経済成長と保守政権の定着 3 経済大国日本 16章 冷戦の終了と55年体制の崩壊 1 新しい秩序形成への模索 2 現代文化と日本の進路		
歴史の論述 歴史の探究方法と表現活動	*「歴史の論述」では、主体的な学習を促すため、具体的な資料に基づいて歴史を総合的に考察し論述するための手段や方法について例示した(第2号)。	362～364ページ

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) わかりやすさ、学習上の便宜を考慮して、ふりがなや参照ページなどを適宜挿入した。また、読みやすさを考慮して、注は最小限にとどめた。
- (2) 旧石器時代以前の記述では人類学の研究成果を反映させ、近代・現代では統計資料などの図版を多く組み込んだ。
- (3) 国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする日本と諸外国との関係に留意しながら叙述し、随所に地図を掲載した。
- (4) 視覚効果を高めるため、図版はできる限り大きく掲載した。また、地図・グラフ類は専門家による校閲のもと、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心がけた。
- (5) 教育現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能な限りそれらを叙述に生かすよう努めた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-12	高等学校	地理歴史科	日本史B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	日B315	新日本史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色				
<p>(1) 内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連付けて叙述するとともに、地図や年表などの諸資料も適宜掲載した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさにも配慮した。</p> <p>(2) 日本文化の特色や形成過程が総合的に理解できるよう、文化史は時代背景と関連付けた叙述を心がけた。また、生活文化に関連する内容も多く取り上げた。</p> <p>(3) 「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」において、歴史の考察が諸資料に基づいてなされることを具体的に例示した。</p>				
2. 対照表				
	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
	歴史と資料 正倉院と古代の歴史 第1部 原始・古代 1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の形成 3 古墳とヤマト政権 2章 古代国家の形成 1 ヤマト政権の支配機構 2 推古朝と飛鳥文化 3 律令国家への道 4 律令国家の構造 3章 古代国家の展開 1 天平時代 2 天平文化 3 律令国家の転換 4章 宮廷貴族社会の成立	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化	6～78 ページ	1 7       8       9       7



<ul style="list-style-type: none"> <li>3 列強の中国分割の始まりと日露戦争</li> <li>4 日露戦争後の政治と社会</li> <li>5 近代産業の定着</li> <li>6 近代文化</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>12章 大正デモクラシーと政党政治 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 第一次世界大戦と大陸進出</li> <li>2 大正デモクラシーとワシントン体制</li> <li>3 政党政治の展開</li> <li>4 市民文化の時代</li> </ul> </li> <li>13章 第二次世界大戦と日本 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 中国問題と軍部の政治的台頭</li> <li>2 日中全面戦争と第二次世界大戦</li> <li>3 太平洋戦争</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(5) 両世界大戦期の日本と世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 政党政治の発展と大衆社会の形成</li> <li>イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会</li> <li>ウ 第二次世界大戦と日本</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>284～325 ページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9</li> <li>7</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>14章 占領と国際復帰 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 戦後改革</li> <li>2 冷戦とサンフランシスコ講和会議</li> </ul> </li> <li>15章 55年体制と高度経済成長 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 55年体制の成立</li> <li>2 高度経済成長と保守政権の定着</li> <li>3 経済大国日本</li> </ul> </li> <li>16章 冷戦の終了と55年体制の崩壊 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 新しい秩序形成への模索</li> <li>2 現代文化と日本の進路</li> </ul> </li> <li>歴史の論述 歴史の探究方法と表現活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(6) 現代の日本と世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 現代日本の政治と国際社会</li> <li>イ 経済の発展と国民生活の変化</li> <li>ウ 歴史の論述</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>326～364 ページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5</li> <li>7</li> <li>3</li> <li>1</li> </ul>
計			140